

サッシとガラスのトップランナー制度の見直しに係る論点の整理

○とりまとめ（案）と関連論点の対応表

とりまとめ（案）		関連論点
別添	内容	
1. サッシ・ガラス共通関係		
1	建材 TR 制度の対象範囲・単板ガラスの扱い	②⑩⑪
2. サッシ関係		
2	サッシの対象範囲・対象事業者	③④
3	性能指標と測定方法	⑨
4	区分と目標基準値	①⑨
	目標基準値の妥当性（今後検討）	⑥⑦⑧
5	目標年度	⑤
6	表示事項	—
3. ガラス関係		
7	ガラスの対象範囲・対象事業者	⑪⑬
8	性能指標と測定方法	⑬
9	区分と目標基準値	①⑬
	目標基準値の妥当性（今後検討）	⑫⑮⑯⑰
10	目標年度	⑭
11	表示事項	—
4. その他		
12	委員名簿	—

○サッシとガラスのトップランナー制度に関する論点一覧

サッシとガラス共通の論点	
論点①	「2030 年度以降新築される住宅・建築物については、ZEH 基準の省エネ性能の確保を目指していること」を踏まえ、目標基準は以下の事項について考慮した上で、ZEH の外皮性能基準とサッシとガラスの性能基準を整合的に設定することを検討してはどうか。 ア) トップランナー基準値と ZEH の外皮性能基準の関係 イ) 性能別の製品の出荷割合 (制定当時の予測と実績の差、今後の目標シェアと ZEH 目標との関係) ウ) 性能改善の現状 (制定当時の性能改善予測と実績の差、技術開発の将来見通し等による今後の性能改善予測と ZEH 目標との関係) エ) 地域特性 オ) 諸外国の基準 カ) 経済性 (十分な費用対効果が見込めるか)
サッシに関する論点	
論点②	2030 年の ZEH/ZEB 化目標を踏まえると、戸建住宅等だけでなく、高層建築物用についても改めて検討が必要ではないか。
論点③	木製サッシや特定の開閉形式を除外している点については、最新の状況等を踏まえて対象に含めるべきか否か、改めて検討すべきではないか。
論点④	「年間の生産量又は輸入量が概ね 1%以上の事業者」としているが、「年間の生産量及び輸入量が 1%を超える事業者」等に見直すことを検討する必要はないか。
論点⑤	目標年度は、製品開発から出荷までに要する期間を考慮したうえで、2030 年 ZEH 基準を達成するためにどうあるべきか検討が必要ではないか
論点⑥	新たなトップランナー値は、性能が最も優れている製品の水準と ZEH の外皮性能基準の関係等を考慮してどうあるべきか検討必要ではないか。
論点⑦	(シェアの推計と現在のシェアが異なる場合には、) ZEH 目標との関係も踏まえつつ、適切な見直しの検討が必要ではないか。
論点⑧	「技術開発の将来の見通し」について、ZEH 目標との関係も踏まえつつ、制定当時の状況と現在の状況を踏まえて、見直しを検討すべきではないか。
論点⑨	現在の通過熱流量 $q(S)$ 値による評価は、出荷される窓製品の面積を必ずしもサッシメーカーが決定できる訳ではないことから採用されたものであるが、これまでの運用を通じて、熱貫流率 U で評価する方が合理的であるなど、見直しが必要な事情が生じていないか。
ガラスに関する論点	
論点⑩	2030 年の ZEH/ZEB 化目標を踏まえると、戸建住宅等だけでなく、高層建築物用についても改めて検討が必要ではないか。
論点⑪	1mm 単位でのシェアが 5%未満であっても、除外される合計のシェアは 1 割を超えているため、断熱性能の高い複層ガラスが適切に評価できなくなっていないか、検討が必要ではないか。
論点⑫	不活性ガス封入品等をトップランナー値から除外している点については、最新の出荷割合を踏まえて見直しを検討する必要があるのではないか。
論点⑬	「年間の生産量又は輸入量が概ね 1%以上の事業者」としているが、「年間の生産量及び輸入量が 1%を超える事業者」等に見直すことを検討する必要はないか。
論点⑭	目標年度は、製品開発から出荷までに要する期間を考慮したうえで、2030 年 ZEH 基準を達成するためにどうあるべきか検討が必要ではないか。
論点⑮	新たなトップランナー基準値は、性能が最も優れている製品の水準と ZEH の外皮性能基準の関係等を考慮してどうあるべきか検討必要ではないか。
論点⑯	(シェアの推計と現在のシェアが異なる場合には、) ZEH 目標との関係も踏まえつつ、適切な見直しの検討が必要ではないか。
論点⑰	(当時の性能改善予測と現状が異なる場合には、) ZEH 目標との関係も踏まえつつ、今後の性能改善予測に活かすなど、検討が必要ではないか。
論点⑱	現在の中空層厚みを変数とする目標基準値 (熱貫流率) は、出荷される複層ガラスの中空層厚みを必ずしもガラスメーカーが決定できる訳ではないこと等から導入されているが、性能向上の観点からは、中空層厚みを増やすことが評価され得る基準を検討すべきではないか。